



2009 August No.199
百万石蝶談会

翔

石川県金沢市でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察

松 井 正 人

石川県金沢市の民家の庭から、ツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察したので報告する。

4月12日に、玄関横（野外）に置かれた植木鉢のスマレに食いつく幼虫と、この植木鉢から落ちたと思われる幼虫がコンクリートの上を移動しているのを発見した。また、1週間後には、その植木鉢から4m程離れた場所にある、自然に生えたスマレを食べる幼虫を観察した。自然に生えた庭のスマレの葉は冬期間は枯れているため、食いついていた幼虫は、新葉が伸びてきたところに、植木鉢から移動したものと思われる。

小松市の民家の庭からも、ツマグロヒョウモンの越冬幼虫が観察されており、庭など民家周辺は、自然状態よりも幾分か暖かな場所として、越冬に成功する可能性が高い場所と思われる。

ツマグロヒョウモンの越冬北限は北上しつつあるが、北限地周辺では、より暖かな場所を巧に利用して越冬していると思われる。

2009年4月12日	石川県金沢市涌波	3 幼（4 齢）	松井正人
2009年4月18日	石川県金沢市涌波	2 幼（終齢）	松井正人
2009年4月19日	石川県金沢市涌波	3 幼（終齢）	松井正人



玄関横の植木鉢に生えたスマレを食べていた
ツマグロヒョウモン(2009年4月18日)



伸び始めたばかりの庭のスマレを食べていた
ツマグロヒョウモン(2009年4月18日)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県金沢市でムラサキツバメを採集

澤田 博

筆者は、金沢市においてムラサキツバメを採集したので報告する。採集データは次のとおりである。

2009年6月23日 石川県金沢市出羽町(石川県立歴史博物館前) 1♂ 澤田 博

採集された個体は、尾状突起が残る新鮮な個体で、夕刻、歩道上に静止していた個体を手づかみしたものである。石川県立歴史博物館前には十数本のマテバシイが植栽されており、葉には一部、何かに食害された跡が見られるが、ムラサキツバメの巣や幼虫、脱皮殻は見いだされず、そこで発生したかどうかは不明である。

前22日夜から23日未明にかけて、低気圧の通過により激しい雨となり、大雨・洪水警報が発令されており、この低気圧とともに飛来した可能性もある。

ムラサキツバメは、温暖化による北上が注目されている種の一つであり、金沢市でも2005年、2006年に8月以降一時的な発生が確認されているが、その後の記録はない。

《 参考文献 》

松井正人 (2008) 2007年石川県のムラサキツバメ調査. 翔(190):4.

《さわだ ひろし 〒920-0935 金沢市石引1丁目16-11 》

石川県金沢市金川でホシミスジを採集

浅野 直 樹

金沢市金川町の北陸大学薬学部薬用植物園で温室に入ってきたホシミスジを採集したので報告する。

2009年7月3日 石川県金沢市金川町北陸大学薬学部薬草園 1♀ 浅野直樹

北陸大学薬学部薬草園は、昭和50年の北陸大学開学と同時に準備が進められ、51年に造成工事が終わり、52年6月に開園された。ホシミスジの食樹になっていると考えられるユキヤナギは、この時期に移植され、30年を経過している。その後移植されていないので、この時期に幼虫が着いてきたと思われる。

金沢市における本種は、日尾(今井ほか、1957)や湯涌(未発表)などの奥山で記録されており、今回のように市街地に近い記録は初めてである。

《 参考文献 》

今井宏三・勝田 博(1957) 金沢市近郊の蝶を追加す. とっくりばち(5):9.

《あさの なおき 〒920-0942 金沢市小立野2-27-7》

石川県金沢市山川でホシミスジを採集

長 田 真

金沢市山川（やまご）町の内川スポーツ広場にあるクリの花に飛来したホシミスジを採集したので報告する。

2009年6月15日 石川県金沢市山川町 1頭 長田 真

金沢市内における本種の記録はほとんど無く、これまで日尾（今井ほか、1957）と湯涌（未発表）が知られていただけである。

《 参考文献 》

今井宏三・勝田 博（1957）金沢市近郊の蝶を追加す．とっくりばち（5）：9．

《おさだ まこと 〒921-8175 金沢市山科2-9-8》

2007年蝶類採集（観察）報告

指 田 春 喜

1988年分から筆者は、日本国内に限った蝶類の採集・観察の記録を表題のように「多摩虫」（グループ多摩虫会報＝東京）に報告してきた。その記録を国内のものに限った理由はいくつかあるが、海外での採集は、その日程がやや長くなるために、採集できた種類なども多くなり、その同定が容易でないものも多く、それらを早い時期に報告することにやや無理があった。そこで、多くの場合には（その一部ではあるが）別の雑誌などにその採集記や成果を報告した。しかし、今年は国内の採集シーズン前に短い日数の海外での採集・観察する機会があったのでそれも含めて報告することにした。なお、2007年度分は、諸事情により本誌に報告したい。

■Giza Cairo EGYPT February, 15-24, 2007

年度末の忙しい時期であったが、何とかやり繰りがつき、日本脱出に成功した。金沢・大阪（関西空港）・シンガポール・ドバイ・カイロ・ルクソール（エジプト）と乗り継ぎ、36時間かかり目的地到着。こんなところで本当に学会（仕事、有機化学関係、もう少し正確には「複素環化学」という）があるのかなあ。まあとにかく、これで“6大陸制覇”である（残る1つ、南極大陸で蝶は採れるかなあ？）。例によりスーツケースの中にネットを忍ばせておいたが、学会会場のホテル内やエキスカッションの折などに蝶を見かけることはなかった。やはり、エジプトは“カラカラの砂漠の国”であった。仕事が終

了後、帰国前にカイロ近郊でピラミッドを見学した折、ラクダの背中からチョウセンシロチョウらしき小型のシロチョウ1頭が飛び去るのを目撃できただけであった。

■韓国慶尚南道南海島花芳寺 March, 28 ~ April, 01, 2007

ヒメギフチョウ (*Leuhdorfia inexpecta coreana*) 11♂、テングチョウ 1頭

正直なところ、これまで海外での採集は35回を超えるが、*Leuhdorfia*属の海外採集は初である。今回の採集は、もちろん一人で出かけたが、計画段階から色々と多摩虫会員の保坂 満氏にお世話になった(同氏の宮城昆虫地理研究会会誌「インセクトマップオブ宮城」No. 23掲載の「韓国南海島にヒメギフを求めて」は大変参考になった)。はじめに記して、感謝の意を表したい。

3月28日: 金沢(午前5時40分)、大阪(関西空港)、釜山・西部バスターミナル(南海バスターミナル)と乗り継ぎ、午後4時にはターミナル横の「ビザンチン・モーター」着。街中を散策後、早めの晩飯を食べ、就寝。「南海」は、韓国語の発音では「ナメ」と聞こえる。

29日: ターミナル内の韓国食堂で朝飯(₩4000)後、タクシーで10分(₩7000)ほどの花芳寺(ファバンサ)へ向かうも、丸1日曇り空でダメ。午後3時過ぎに早々に帰宿。焼肉(牛カルビ、300g、₩9000)、ビール、焼酎の晩飯で満足、宿でウィスキーの寝酒。

30日: 前日と同様にして、“ご出勤”するも現地は完全な曇天。午後1時半からほんの30分間だけ陽が出て、上記の成果。採集時間がたったの30分であったが、それでも11頭採れたので、これが1日中晴れていたら……。残念!!この30分の間は、目の前に絶えず数頭が飛んでいるという感じで、三角紙に包むのももどかしく、ネットを振り続けた。ソウル付近で採れるチョウセンヒメギフは、小さいものが多いが、ここの個体はかなり大きく、「カッコいいですね!」。前夜と同じ焼肉屋に出かけ、全く同じものを食す。

31日: 朝から完全に雨。予定を早め正午には釜山に移動。南海バスターミナル、砂上(ササン)から地下鉄(₩1100)で西面。ロッテホテルの近くの「連れ込み宿」に投宿。豚カルビ、(400g、₩12000)、ビール2本の晩飯、帰りにロッテホテルのBarカウンターでウィスキーを飲み、早めに就寝。それにしても、3日で1キロの焼肉を食ったことになるのか!安くて、旨かったが、これではなかなかお腹もへこまないはずである。

翌朝は市内乗り合いバス(₩1500)で空港に向かい、午前9時には釜山を発ち、帰国。なお、¥100JPN= ₩780 (2007年3月28日)であった。

■大阪府豊能郡豊能町鴻応山 (alt. 679 m) April, 14, 2007

ギフチョウ 3♂

週間天気予報では、この週末は(特に土曜日)あまり晴天に恵まれないようなことを言っていたので、当初は土曜の午後から出かけるつもりでいた。それが思ったより回復が早く、西日本は天気が悪くないようであるので、急遽、友人0君の新車デリカで午前5時半に出

発。午前10時登山口・牧到着（分かりにくい）。30分ほどの登りで頂上。既に先人が6人、目撃はしたが、採れてはいないと言う。よさそうなポイントには全てネットを片手の採集者が張り付いている。雲が流れ、陽が出たり曇ったりの繰り返しで、天気は今ひとつである。午前11時、そのうちの一人と情報交換の最中に突然目の前にオスが現れ、これを小生がネット・イン。2時間以上その場所で張っていた男になんとか悪いような気がしたが、これもしようがない。その後、1時間に1頭の割合で採集し、上記の貧果。だが、当日、複数で採集できたのは小生だけであり、目撃すら出来ない者もいたようである。大阪のギフは、最近はなかなか採りにくいものであるらしい。午後3時、店じまい、国道173号を北上し、「るり溪温泉」（¥700）で入浴と夕食。その駐車場脇に適当な建物があり、そこでホット・ウィスキーを飲み、早めに寝袋にもぐりこんだ。

■大阪府豊能郡能勢町歌垣山 (alt. 679 m) April, 15, 2007

ギフチョウ 1♂

多少、ラベルを意識して上記に移動。歌碑のようなものがある山頂付近と三角点のある場所に0君と分かれることにした。その後、登って来た地元の採集者の言では、昨日の「鴻応山」より「歌垣山」は、個体数が少ないらしい。細い路ではあるが、山頂までクルマは入る。いかにもいそうなポイントもあり、天候も良かったが絶対数が少ないのであろうか、目撃もこの1頭であり、数人いた採集者は採れなかったようであり、早めに店仕舞い。関西のギフは数が採れません！

■長野県小谷村黒川 (alt. 700 m) April, 29, 2007

ヒメギフチョウ 11♂4♀、スギタニルリシジミ 1♂

28日：昨年と同様に連休前に具体的な計画を立てられず、連休に突入してしまった。28日、取り敢えず準備を整え、午前7時に出発。空はどんよりと曇り、近場はどこに行ってもしょうがなさそうである。魚津から僧ヶ岳への登山道に入り込んでみたが、沢沿いの路は険しく、ポイントを見つけられなかった。天気のリcoveryも遅れているようであり、明日の採集地を考慮して、白馬村の道の駅「美麻ぼかぼからんど」で湯に入り、晩飯後は早めに就寝。夕方の天気予報で明日の好天を報じていたが、夜半まで雨が降っていた。

29日：日付が変わるあたりあたりから晴れたのであろう。当に「放射冷却」であり、この朝の冷え込みはきつかった。同じ装備で、同じ時期の一昨年の北海道・旭川（最低気温1.8℃）よりも寒く感じた。建物の屋根には、霜だか雪だかわからぬが、白いものが1センチほど積もっていた。

白馬村は村の条例でギフチョウとヒメギフの採集を禁止しているので、あまり近づきたくないの、小谷村に行ってみたが、ここでも歓迎されなかった（当然か！）。南小谷駅脇の踏み切りを渡り、黒川の部落を過ぎ、二又を山に向かう。途中、山菜盗採禁止の立て札があり、鎖でクルマはストップ。その直ぐ先がポイントである。その先にも数箇所ポイ

ントがあり、かなりの急勾配をヒメギフが上がってくる。路に出た瞬間を一発でネットに入れないと、高く上がってしまい手が出ない。午後になると予想通り、雌が路上を這うように飛びはじめた。午後3時、夜と明日の朝食の買い物をして、「美麻ぽかぽからんど」に向かう。

■長野県長野市鬼無里西岳林道 (alt. 1100 m) April, 30, 2007

ヒメギフチョウ 1♂

朝の冷え込みが予想されたので、朝食は「鍋やきうどん」にしたのが大正解であった。アルミの簡易鍋に入っている例の「半インスタント」であるが、これをコンロにかけ、付いている具とうどん、つゆを入れ、卵を追加、これが旨かった。

道の駅「美麻ぽかぽからんど」から白馬に出て、鬼無里を通り、品沢高原を目指す。西岳林道は、数年前よりもさらに手前にクルマ止めがあり、ポイントの3つ目の沢までは30-40分ほどかかった。途中、路上のスミレに飛来したヒメギフ1♂をネット。今冬は少雪で、クモツマキチョウの発生も早いと予想し、出向いてみたが、スジグロシロチョウやスギタニルリも少なく、どうもフライングのようであった。蝶の発生時期を左右するのは雪の多寡だけではなく、やはり直前の気温が大きく影響するのであろう。いつまでたってもこの辺が難しいところである。

■新潟県魚沼市銀山平 (alt. 900 m) May, 27, 2007

連休以降、土曜日勤務などもあり、晴天の週末を無駄(?)にってしまった。前日(26日)午後4時に出発、越後川口で高速を降り、「和楽美(わらび)の湯」で夕食・入浴。午後7時以降の入浴は500円と割安であった。大湯温泉から栃尾又温泉を見て回ったが、今冬は雪が少なく、緑はかなり濃くなっており、ギフの発生は終わっていそうであった。

銀山平に出て、R325を枝折峠に向かい、直ぐの右カーブを北ノ又沢沿いに上流に40分ほど歩く。残雪は去年より大分少なく、天気予報でもあまり良いことを報じてはなかったが、雲の流れが速く、数分と陽が出てない。気温は低くなかったが、風がやや強く、ギフは目撃できなかった。新潟県内水試の保護区監視員にネットを出しているときに声をかけられ、最初はヒヤッとしたが、ギフの今年の情報などを教えてくれ、友好的であった。

さらに奥只見・丸山スキー場にも行ってみたが、天候の回復は見込めず、目撃もできなかった。季節の進行は早く、来週末のリベンジを躊躇させるほどである。来週の3連休はこの銀山平～枝折峠のギフ採集と決め込んでいたのだが・・・。

■新潟県魚沼市奥只見～枝折峠 June, 1-3, 2007

6月1日(金)が大学の創立記念日のため3連休であり、天気も良さそうだが、こういう連休には相棒が見つからない。そこで仕方なく一人旅となるかとも思われたが、2日から

東京時代の蝶友0氏が合流した。実に20数年ぶりの再会である。1日は予報より天気の回復が遅れ、午前中は小雨も降り、仕事にならなかった。持参した折りたたみの自転車に乗りたり押したりしながら大湯温泉から枝折峠まで午後から2時間かけて行ってみたが、様子を見ただけで終わった。しかし、帰り道は快適に風を切り、30分ほどで坂道を駆け下りた。大湯温泉「銀泉荘」泊まり。

■新潟県魚沼市奥只見丸山スキー場 June, 2, 2007

2日は、大湯温泉の宿まで0氏が迎えに来てくれた。一昨年に1頭だけだが彼が採集している当地に行ってみた。大湯温泉からシルバー・ラインを抜け、奥只見に出る。リフト乗り場から急な道を1時間ほど登るとリフトの山頂駅に着く。それにしてもポイントが絞れない。やはり、季節の進み具合は早く、雪もほとんど消えており、緑が鮮やか過ぎた。元々密度の薄いところらしく、僅かに1頭を目撃に留まった。

■新潟県魚沼市枝折峠～明神峠 June, 3, 2007

ギフチョウ 12♂、ミヤマカラスアゲハ 2♂、ヤマキマダラヒカゲ 1頭

例年ならば、当地は最も発生の遅いところのひとつであり、今頃が適期のはずなのだが、今冬の少雪は、予想以上にギフの発生を早めた。午前8時過ぎ、枝折峠から明神峠を目指して歩きはじめて直ぐ、1♂がネットに入った。かろうじて尾状突起はあるが、「フケフケ」であり、黄色のギフではない。2週間以上前から発生していたと思われる。明神峠周辺を中心に採集したが、どうもさらに奥の方が新鮮な個体が採れたようだ。昨日に引き続き天候は問題なかったが、0氏は奥方を新潟某所で拾い埼玉まで、当方も宿で荷物を取り金沢までJRで帰らなければならず、早々に店じまい。正午過ぎ、毎号素晴らしい出来栄の「多摩虫」表紙を担当されているイラストレーターの森本 博氏にお会いし、しばしお話できたのは嬉しかった。奥さんで見られる美人の女性をお連れしており、うらやましい（奥さんでなければ、もっとうらやましい）。

■Lodz POLAND June, 21-30, 2007

前期授業の最中であつたが、何とか都合がつき、国外脱出に成功。ほぼ3年に1回の割りで開催される当方の専門の有機化学の国際会議がポーランドであり、これに出席した。ウッジは、首都ワルシャワからクルマで3時間ほどの地方都市であり、会場のウッジ大学はキャンパスも広そうであり、合間にネットが振れるかと思つたが、シロチョウの仲間（オオモンシロと思われる）を目撃しただけに留まった。ポーランドは初めての国であり、ワルシャワの街中を観光しておしまいになつてしまった。

E-mail: h-sashida@hokuriku-u.ac.jp

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

羽咋郡志賀町荒屋で観察したヒメカンアオイ

松 井 正 人

筆者は松井（2008）で、ヒメカンアオイの生育地が、珠洲市、羽咋郡志賀町、羽咋市と広い範囲に散在することから、かつては広い範囲に生育していた可能性があり、ヒメカンアオイを食草とするギフチョウも生息していた事が考えられるとして、能登で観察しているカンアオイの仲間の生育地を紹介した。しかし、羽咋郡志賀町荒屋のヒメカンアオイについては、環境の変化によって観察場所が分からなくなり、2007年の再調査では観察できなかったと報告した。

2008年に再び調査したところ、以前よりも広い範囲でヒメカンアオイが観察できたので報告する。

荒屋の集落から生神に抜ける峠越えの旧国道があり、荒屋から峠に向かって進むと、車止めのゲートがある。ここから徒歩で進むと右側に緩く下って谷に入る車道がある。この車道を終点まで進むと、左手に鋼製の橋があり歩道が奥へ伸びている。この鋼製橋の直ぐ下流の両岸にびっしりとヒメカンアオイが生えていた。この沢に沿って周辺部の調査も行ったが、観察できたのは、ここだけだった。



ヒメカンアオイの観察地



羽咋郡志賀町荒屋のヒメカンアオイ（2008年4月13日撮影）

《 参考文献 》

松井正人（2008）能登に生育するカンアオイの仲間とギフチョウ生息の可能性. 翔(191)：1-2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■ならがしわ復刊

各県で進むレッドデータブックの見直しの中、奈良県の昆虫類は19年度に発行されたが、基礎となる確かな記録が驚くほど少なかった。そんな中、ならむしの会会誌「ならがしわ」の記録が役に立ち、身近な観察記録を紙ベースで残す価値の重要さと大切さが改めて認識され、復刊に至った。

■久々の戸台

話は5月に遡るが、へろへろのヒゲナガコバネの中にあって格調の重量感を漂わせるツジヒゲナガに惑わされた井村会長、戸台では虫屋が群がるカエデを尻目に、睨んだカエデで採集し、さっさと帰ってきた。

■アサギ焼け

松井氏が、早くも日焼け。「アサギ焼け」とかで、5月下旬から続けている海岸通いのためらしい。6月の紫外線は強く、海岸の照り返しは相当なものらしいが、マーキングのためなら苦にもならないとか。

■長崎と大分のアサギマダラを再捕獲

五島列島から飛来したアサギを5月23日に再捕獲したのを皮切りに、6月8日、12日、13日と姫島から飛来した3頭が海岸で再捕獲された。そして6月16日には、姫島からの4頭目が医王山で再捕獲された。

■触倉島にトンボの大群

触倉島で調査をしていた富沢氏、6月22日に帰る予定だったが荒天で船が欠航し、豪雨の夜を触倉島で過ごした。翌日、雨上がりに戸外に出ると、空を覆い尽くすほどのトンボが空を舞っていた。

■ムラサキツバメ再び

6月23日、ムラサキツバメが採集された。前日の豪雨をもたらした梅雨前線に乗ってきたのか、それとも暖冬の影響から付近で発生したものか、興味が尽きない。

■医王山北方稜線は虫屋が行ったり来たり

ゼフ好きが待ち焦がれる6月下旬、医王山北方稜線は種数、数ともに多く、採集し易いとなると、県内外から訪れる虫屋は多い。ところが、今年の発生は今ひとつで、虫屋ばかりが目についた。

■山川と金川のホシミスジ

オオミスジを探していて、金沢市内では珍しいホシミスジが相次いで採集された。どちらの場所にも食樹が移植されており、一緒に入ってきた可能性が高いが、金沢産の顔がわかるなら、比較してみたい。

■セミ返し

食料をネズミの害から守るネズミ返しにヒントを得、スジアカクマゼミの羽化を抑えるセミ返しの効果が調べられている。発生木の根際にプラスチック板をグルリと巻いただけのシンプルなもので、滑って登れないようにする仕掛けだが、幹に登れないと近くの草にでも登るような気がする。

■7月の馬の背サロン

この時期、ゼフ好きがたむろする医王山北方稜線、主ことS氏が取り仕切り、盛んに情報が飛び交う。ところが今年は、普通種までもが、いない、採れないとの話ばかり。カシナガによるミズナラ枯損の影響がボディーブローのように現れてきたか。

■ムラサキシジミが多そう

各地で幼虫が見付かったり、医王山ゼフ調査のおこぼれで採集されたりしている。今年が暖冬だった事を加味すれば、これからド〜ンと発生しそうだ。

■ 例会の記録 ■

6月11日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

現在実施中のアサギマダラの海岸マーキングについて、松井氏が報告。5月16日から観察され始め、5月23日に第1ピーク、6月3日に第2ピークが観察された。再捕獲は五島列島と姫島から、それぞれ1頭。調査は6月21日まで予定している。

その他の話題は、オオミスジの発生時期、志賀町のウラナミアカ、医王山のフジはこれから、今年のエサキキンヘリは早かった、ニホントビナナの孵化は5月中旬から、戸台のツジヒゲナガコバネ、成虫になったシラキトビナナ、桑からダイエツ葉、白山

で見付かった雷鳥、などなど。

参加は、長田、大宮、井村、松井、浅地、浅野、勝海、細沼の8人。

■ 例会の記録 ■

7月9日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

井村会長、たとうにきれいに並んだ海浜性の甲虫を見せびらかしつつ、それぞれについて説明。最後にイカリモンハンミョウの現況について、再発見時の20%程度に減少していると報告。

その他の話題は、海岸アサギの観察数は950頭、ムラサキシジミが多そう、フジに生ませた〇百卵、オオヒョウタンの季節、オオルリハムシの南限は志賀町か、珠洲のハラビロ、1畳程のピーティングネット、昆虫館でナナフシの特別展示、などなど。

参加は、細沼、竹谷、松井、浅野、浅地、勝海、長田、井村、大宮の9人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：石川県金沢市でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察	1
澤田 博：石川県金沢市でムラサキツバメを採集	2
浅野直樹：石川県金沢市金川でホシミスジを採集	2
長田 真：石川県金沢市山川でホシミスジを採集	3
指田春喜：2007年蝶類採集（観察）報告	3
松井正人：羽咋郡志賀町荒屋で観察したヒメカンアオイ	8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 199号

Tobu 2009年8月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印 刷 小西紙店印刷所

